

観光創造専攻

平成 25 年度
後期

日本語論述

13 : 30～15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 2 枚ある。
- 3 解答用紙 (25 字×40 行=1000 字) は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配付されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～2 のうちから 1 題を選択し、1,600～2,000 字の日本語（横書き）で回答しなさい。なお、適当な位置で改行して段落に分けること。また字数は改行による空白を含めて計算する。

【問題 1】

日本という国の魅力を、広く海外に知らしめるための方法を立案せよ。案の策定にあたっては、なぜその案が有効なのかについての仮説を設定した上で、具体的事象や統計的傾向^注によって裏付けるか、あるいは社会的に了解された理論や一般法則を援用することによって、論理的に導き出すこと。

注：統計的傾向という用語は、具体的な数字を挙げるという意味ではなく、ある現実を量的に見た場合のおおざっぱな傾向を述べるという意味で用いている。例えば「日本人女性の平均寿命の長さは香港に次ぐ世界第二位」といった記述が統計的傾向である。ここでは、具体的に「日本女性の平均寿命は 85.9 歳（香港女性の平均寿命は 86.7 歳）」（厚生労働省「平成 23 年簡易生命表」）といった細かい数字を示すことまでは求めている。

【問題 2】

あなたが体験あるいは見聞したサービスのうち、もっとも優れていると思われる例一つを選び、どのような評価あるいは判断の基準によってそれを選択するに至ったのかについて説明せよ。次に、そこで設定した基準が、あらゆる文化において普遍的に通用するものなのか、その反対に特定の文脈に依存するものなのかについても検証を加えよ。最終的に、検証の結果を踏まえながら、サービスの普遍性と文脈依存性の問題について、あなたの考えをまとめること。